

地学に触れ、地団研の活動を通して

古川 絢子（山陰支部）

地学を学ぶと、ここが楽しい

地学を学ぶ中で、どんなところが楽しい（おもしろい）と感じたのでしょうか？「未知の体験！まさか岩を叩くことになるとは思わなかったな～」「大学の実習でいろいろな所へ出かけ、今まで何となく見てきたものにも名前があること、気が遠くなるほど昔にできたことを知り、地学は学んでみると奥深く、重要なものであるとわかった」「卒論では、主に塩基性片岩中のクロムパンペリー石の記載をしました。はじめは思う



新入生歓迎巡検（新歓日巡）では1年生が上級生から説明を受け、多くのことを学んでいきます

ように結果が得られず苦勞したけど、ちゃんと成果が出てよかった」「最初は一心に山を歩いたな…。指導教官といっしょに調査へ行った時に、闇雲に歩くのではなく、考えながら歩くことの重要性を学びました」 みんな、地学を通じて、楽しさと苦勞を味わい経験を積み重ねています。

地団研でこんなことができる！

山陰支部では主に年4回の日曜巡検（日巡と言っています）を企画しています。4月は博士前期課程1年が案内人を務め、40～50人前後で新歓巡検を行います。新1年生は走向・傾斜の測定方法を教わり、出雲大社や日御碕、布志名層の化石採集ができる場所に行っています。

5、6月の間に1～2回日巡が行われ、石見銀山や鳴き砂で有名な琴ヶ浜へ出かけ、その他に沸石の観察が行われました。10、11月の間に、奥出雲多根自然博物館で募集した小学生と一緒に、地学ハイキングへ出かけ、昼食時に温かい豚汁を囲み、広島で化石採集が行われました。

その他にも、広島大学と1泊2日の合同巡検を実施しています。案内は1年毎に島根大と広島大で交互に行います。最近の島根大主催の巡検では、岡山県の大佐山周辺で変成岩の観察や、島根半島で堆積物の観察が行われました。「ふだんは下級生と話す機会が少ないけど、とても会話が弾む！」「専門的なことが気軽に学べる。地元の地質についても教わることができ、授業で学ぶことの理解が深まった」 参加した学生は、楽しみながら自然を肌で感じています。

団研調査に参加して

私が団研調査に初めて参加したのは高校生の時でした。最初はまわりで専門用語が行き交い、露頭を目の前にして繰り広げられる議論にただ圧倒されました。団研では沢や斜面を丹念に歩き、現場で多くの情報を見つけるという、実践的な調査方法を学びました。団研での経験が、進論や卒論調査時にはとても役立ちました。また、いっしょに参加している他大学の学生と交流することによって、初心にかえる非常に良い場にもなっています。学生の皆さんも実家に帰省したときなど、地元の団研に参加して広い視野を身につけてみませんか？